



〒950-8535  
本社 新潟市中央区万代3-1-1  
〒950-1189  
黒崎本社 新潟市西区善久772-2

発行所 新潟日報社

## 県内 遺品整理業者が見た現実

新潟日報社  
〒950-8535  
本社 新潟市中央区万代3-1-1  
〒950-1189  
黒崎本社 新潟市西区善久772-2

# 孤立死 人ごとでない

連載「茶の間、いいこて」では、地域の茶の間の取り組みを通じて、ニューシニア世代にますます必要性を増す地域社会のつながりを描いた。ただ近い将来ではなく、現在すでに深刻な現実が垣間見える。周囲とのつながりが絶たれ、誰にもみとられずに最期を迎える孤立死（孤独死）は県内でも珍しくなく、遺族らに代わって遺品整理を手がける業者のニーズが高まりつつある。関係機関が見守り活動や情報共有に取り組んでいるが、悲しい事態を防ぎ切れていない。

（報道部・高津直子）

県都、新潟市中央区の住宅街。一戸建て住宅で60代男性の遺体が見つかった。独り暮らしで近所付き合いが少なく、周囲が異変に気付いたときには死後3カ月ほどが経過していた。2010年2月のケースだ。

家族はおらず、県外の親戚とも疎遠。居間も台所も日用品や古新聞などがうすたかく積み、こたつの上には、卓上コンロでインスタントラーメンを煮ようと

準備した形跡があった。県外に住む男性の親戚から遺品整理を請け負った市内の業者社長（55）は「電気、ガス、水道が止まり、ふとん

建築業を営むこの社長は、からの依頼もある。同市を5年ほど前から葬祭関連業者の要望を受け遺品整理

中心に年間約40件を手がけ、うち10件ほどは、死後、時間を経て発見された高齢者のまま染みついたベッド

「私たちは従来家族がしていたことをしている。社会全体のつながりが希薄になっ

「あいつの杜」代表、今井優さん（55）は昨年、遺品整理士に認定された。「ない方がよい仕事だとは思いますが、実際に問い合わせがある。最後まで適切に業務を

## 周囲と結び付き 希薄に見守り支え合う機運高めて

### 見守り支え合う機運高めて

も起きている現実だと断言する。

遺品整理業は不動産業者や運送業者、清掃業者などが参入するケースが多いとされるが、特別な資格や免許などは必要なく、実態は

独り暮らしのある人が少なく、日用品が散乱する室内。遺品整理業者はその人の生きてきた痕跡を消す仕事

新潟市中央区



茶の間にいいこて  
地域のつながり求めて

番外編



把握されていない。一部では高額請求や不法投棄などトラブルも生じているという。

業界の健全化を目指し、2年前には「遺品整理士認定協会（北海道）が設立された。すでに認定遺品整理士は全国で約1200人に上り、県内にも10人いる。同

協会は「地方は都市部より地域の結びつきが強いかもしれないが、ニーズは年々高まっていると説明する。

新潟市南区の遺品整理業「あいつの杜」代表、今井優さん（55）は昨年、遺品整理士に認定された。「ない方がよい仕事だとは思いますが、実際に問い合わせがある。最後まで適切に業務を

県高齢福祉保健課によると、10年の県内の高齢単身世帯は約6万5千、高齢夫婦だけの約8万3千世帯と合わせると全世帯の17.7%。20年には全世帯の4分の1を占めるとされる。

県は民生委員の活動推進などのほか、4年前から高齢者見守り強化月間」を定め、自治会やNPO法人の見守り活動支援を展開している。同課は「孤立死を防ぐ特効薬はない。元氣なうちから地域とのつながりを持ち、支え合う機運をつくっていくしかない」としてい

る。